本宮市の皆さんを紹介するページ

みんなのひろば

今月の人

遠藤　俊也さん

SHINYA　ENDOU

（本宮字上町）

新蕎麦の季節になってきました。そば打ちをしていても打ちやすいし、特に水まわしの時に立ちのぼる新蕎麦の香りがたまりません。

一二三食堂でも間もなく入荷しますのでぜひ食べにきてください。

私の随想録

「突拍子もない『将来の夢』」

6歳になる娘に「大きくなったら何になりたい？」と聞くと「海賊王」と答えたことがありました。もちろん漫画の影響だろうし、実際、海賊という犯罪者になられても困るのですが、私はその言葉にハッとさせられました。

大人になるにつれてもそうですが、特に不景気になってからや震災後の私たちは「それはダメ」「それは無理」と、欲しいものや、やりたい事など、諦める機会がめっきり増えました。本当に無理な事も多いとは思いますが、できるかどうか試行錯誤する前に「できない」という思い込みで諦めてしまっていることも多いのではないかと思います。

敗戦直後の日本。私たちの祖父母や親は、どん底の生活の中「お腹いっぱい食べたい」「もっと豊かになりたい」と、それこそ我武者らに頑張ってきました。そんな人々のおかげで日本は豊かになり、私たちは物や時間が有り余るほどの何の不自由も無いこの国に生まれました。やがて大人になった私たちはこうして不景気に嘆き、不景気に慣れ、「望む」ことを忘れてしまっている気がします。

もしかしたら今の私たちに必要なのは戦後日本を立て直した人々のように、我武者らに望む事ではないかと思います。もっと、何かを欲しがり、それをかなえるために生きる事ではないかと思いました。

何かを諦める正当な理由を探してる毎日では、国がどんな政策をとったとしても同じ事。私たち一人ひとりが「ああなりたい」「こうしたい」と強く望む事で、少しずつ良い方向に向かうのではないでしょうか。

それこそ海賊王になろうとは思いませんが、娘の突拍子もない「将来の夢」に少し考えさせられました。

◇　◇　◇

来月は、橋本栄明さん（和田字竹ノ内）の予定です。

こどものひろば

「和田放課後児童クラブ」

担当　遠藤明美

【登録児童数】27人

（平成25年9月1日現在）

和田放課後児童クラブは、和田分館の中にあります。周囲は田畑住宅地に囲まれ、願い事がかなうと伝説のある「わんだの清水」と、大梵天祭で有名な「岩角山」が近くにあり、のどかな場所です。

現在は児童数27人が放課後児童クラブで過ごしています。暑くて長い夏休みを共に生活した子どもたちは互いに仲間意識が深まり、一年生は将棋を教えてもらったり、女児たちは折り紙でくす玉づくりをしています。互いに良い影響を受け仲良く過ごしていることは、児童クラブの良さだと思います。

夏休み中に一年生たちはドッヂビーが大好きになり盛り上がっています。チーム分けをして真剣そのもの。途中で水分補給をするとパワーアップ、気合が入ります。

二学期が始まり、まだまだ夏休み気分がぬけていない子どもたちですが、やることはしっかりしています。

「ただいま～、先生あのね」と一通りおみやげ話が終わるとしっかり宿題を済ませ、やりたい遊びへと活動開始。外遊びでは、よくカエルやバッタを見つけてきますが、しばらく触れ合うと自然に放してあげている優しい子どもたち。誰かが一声「なにして遊ぶ」と聞くと「鬼ごっこしよう」とすぐ決まります。人数的にまとまりやすいのが仲良しの秘訣なのかもしれません。

毎月の誕生会の手作りおやつも楽しみにしている一つです。子どもたちが中心となり、誕生者もドキドキ。司会者にもちょっぴり緊張が感じられますが、楽しく盛り上げてくれています。

スポーツの秋、読書の秋、活動しやすい秋、これからもわんだの里の子どもたちは恵まれた環境の中でのびのびと楽しく生活をしていきたいと思います。

▲まとまりがあって、みんな仲良し和田っこ

Interview No.40

活躍人訪問

鹿島神社太々神楽保存会 楽長　菊地　次雄さん

歴史が長い太々神楽を奉納できることはとても誇らしいと話す菊地さん

■130年の歴史

松沢の鹿島神社で氏子によって神楽が奉納されるようになったのは、今から約130年前の明治14年だと言われています。阿久津町にある神社の神主に神楽を習いに行ったのが始まりだそうです。

私も、中学校を卒業してすぐに、この神楽を始めました。当時は、旧正月になると、一週間の間、神社で神楽を練習するのが恒例になっていました。私も始めたばかりのころ、毎日通っては、見よう見まねで踊りを覚えました。それから月日が流れ、今では、楽人となって65年を迎えました。

■一味違う種蒔楽

鹿島神社の神楽の十八番は、「天地開闢」と「種蒔楽」です。中でも種蒔楽は、春は豊作を祈願し、秋は実りに感謝して餅をまく舞で、ほかの太々神楽は翁が餅をまくのに対し、鹿島神社の場合、翁に教えられキツネが餅をまきます。そうした違いを今度注意して見ると面白いかもしれません。

■楽長の思い

後継者を育てていきたいです。鹿島神社太々神楽は、現在約7～8人で演じていて楽人が少なくなってきています。11月3日には、恒例の秋季例大祭があります。地元にはこんな歴史があるんだということを、子どもたちをはじめ、若い人たちに知ってもらえるとうれしいです。

■私の趣味

生涯学習をやっています。公民館の文化財講座を60歳の節目で始めて、20年間になりました。地元の歴史を勉強することで、神楽の根拠などが徐々にわかってくるのが面白いです。

FM Mot.Com（エフエム モット コム）秘情報

あの声は、私です…

《パーソナリティ紹介》

◆**ラジオネーム：**
セレブ千恵子

◆**本名**
津守千恵子

◆**出　身**
本宮市

◆**趣　味**
ゴルフ・園芸

◆**担当番組**：寿ニュース
（毎週月曜日　午後8時00分～）
再（毎週木曜日　午前10時30分～）

◆**リスナーに一言**
であいが大好き！！♡